

# HIGO プログラム選抜試験

2015. 8. 11

HIGO program selective examination for Kumamoto University

## 小論文（日本語版）

試験時間 1時間30分

(15:00~16:30)

Short Article

Duration of examination 90 min

(15:00~16:30)

### 注意事項 Attention

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子は開かないこと。  
Do not open this booklet without the examiner's permission.
2. 問題用紙、解答用紙に乱丁等がないか確認すること。  
Please check to ensure all pages are present in the correct order.
3. 試験問題は2題あります。どちらか1題を選択し解答すること。  
Select either question to be answered among the questions  I, and  II.
4. 解答用紙をとじているホッチキスは、はずさないこと。  
Do not remove the staple from the answer sheets.

## I

優生学について述べた以下の文は、『生命倫理百科事典』（丸善 2007, p.2725）から引用したものである。これを読んで後の問に答えなさい。

人類遺伝学の進歩は、遺伝カウンセリングという新しい分野の発展を促した。遺伝カウンセリングでは、これから親になろうとする人々に、遺伝性疾患のある子どもが産まれるリスクについて助言を与えた。1950年代、このカウンセリングの初期には、優生学的に有利になるように習慣を変えさせようとした遺伝学者たちもいた。そのようにして、集団における遺伝性疾患の発生率を減らし、ひいてはヒトの遺伝子プールと遺伝学者が呼ぶようになった集団中の有害遺伝子の頻度を低下させようというのである。そのためにはカップルに、2人の結婚が子孫にどのような遺伝的な結果をもたらす可能性があるのかを知らせるだけでなく、いったい子どもを産むべきなのかどうかについて教え諭することがカウンセラーの義務である、と公言する人々もいた。しかし、1950年代の終わりまでには、遺伝カウンセリングの実践の非公式の基準は、優生学を重視する助言つまり、家族の福祉よりも遺伝子プールの繁栄を目標とするような助言に、強く反対するものとなっていた。その基準の主張するところでは、たとえカップルの福祉のためであっても、子どもを持つべきではないとカップルに告げる権利はカウンセラーにはない、ということであった。

当初、遺伝カウンセリングが情報源として頼りにできたのは家族歴だけであり、劣性または優性の遺伝性疾患や異常のある子どもが産まれる確率以上のことを、両親に知らせることはできなかった。1960年代以降、羊水穿刺やヒトの遺伝生化学および染色体遺伝学が発達した結果、遺伝カウンセリングは、親になる人が実際に有害遺伝子を伝達するのかを確認できる技術や、検査で選ばれた遺伝性疾患または染色体異常が胎児にあるかを出生前に確定できる技術による分析と結びつくようになった。もし胎児にこのような不都合があることがわかった場合、少なくとも妊娠中絶が合法化されている国々、1993年ではアメリカ、イギリス、フランスがそれにあたるが、こうした国々では両親には中絶する選択もあった。

遺伝的根拠による生殖の選別— 両親のスクリーニング、胎児の中絶、あるいはその両方— は、リベラルな宗教団体、非宗教的な倫理学者、多くのフェミニストたちによって支持された。彼らはこうした選別が、女性が自分の人生をコントロールする自由を拡張し、家族の幸福に貢献すると考えていた。しかし、ローマ・カトリック教会とプロテスタント系原理主義は、いかなる事情による中絶にも反対であることを主な理由として、生殖の選別に異議を唱えてきた。また、フェミニストの一部は、近年のいくつかの生殖技術の革新— 例えば体外受精— は、家父長主義的な社会秩序の中で女性を単なる産み機械に還元する恐れがあるとし、さらにそれに遺伝的根拠による選別が加わったと解釈した。その他の人々は、遺伝性疾患や遺伝的障害をもつ胎児を見つけ出す出生前診断によって、感情的な負担と家族としての負担が、女性たちに重くのしかかることを指摘した。さら

に、マイノリティ集団の構成員や障害者たちの間には、遺伝的な選別が、自分たちの差別につながるような抑制的優生学の復活をもたらすのではないかという懸念が生じてきた。障害者とその支援者たちは、遺伝的に悲惨と見なされる子どもの妊娠は中絶してもよいという姿勢を非難した。それは病気とともに生きる人々に汚名を着せるものであり、優生学的心性の表れであると彼らは考えた。

問1. リベラルな宗教団体、非宗教的な倫理学者、多くのフェミニストたちは、どのような理由で遺伝的根拠による生殖の選別を支持したのか。600字以内でわかりやすく説明しなさい。

問2. (i) 胎児の中絶ということと、(ii) 出生前診断により遺伝性疾患または染色体異常があると判断された胎児を中絶することについて、自分の考えを600字以内で書きなさい。

Ⅱ

次の写真を見て、そこからうかがえる発展途上国が直面している問題について、政治、経済、社会の観点から論じなさい。



(解答用紙2枚、草稿用紙1枚)